

II 武士の世の中

○ 鳴山城

< 鳴山城の築城 >

鳴山城が作られたのは、南北朝争乱期の終わりごろ（至徳元年1384）蘆名直盛の黒川城が作られ、応永6年（1399）の足利満直・満貞の陸奥入国の前後であると考えられている。

< 鳴山城の存在 >

鳴山城は、戦国期から近世初期まで存在した。天正18年（1590）会津入りした蒲生氏郷は黒川城は本城とし、九つの支城と呼ばれる城をもち、その中に南山城とあるが、それが鳴山城を指していると思われる。

○ 復元された

鳴山城跡

（大門跡）

大門跡の復元作
業の様子 ▶



徳昌寺（山寺）

伊南城主河原田盛次の将、河原田大膳盛勝の率いる兵と大豆渡村（黒沢）の合戦となり、鳴山城主弥七郎盛秀は、この戦の傷がもとで死亡したらしい。（天正18年3月2日1590）

◀ 弥七郎盛秀の墓（右から2番目）